

山行報告

■高御位歩荷トレ&山飯

<アルプ>

- 日 程：5月10日(日)
- 参加者：L 乙坂 SL 尾内 尾越 佐々木 砂川(延) 須増 春本 平井 三木(悦)
- 行動記録：市ノ池第二駐車場 8:08 発～馬の背登山口(8:10 着)8:20 発～尾根分岐(9:05 着)
9:13 発～市ノ池分岐 9:30 発～高御位山頂(10:13 着)10:27 発～市ノ池分岐
11:57 発～市ノ池登山口 11:23 発～キャンプサイト(11:25 着)山飯後 14:30 解散

◆アルプ山飯会

春本

本来は高御位トレと山飯会と云うことでO坂リーダーをはじめS川会長を含めたアルプメンバーが8時から高御位神社まで歩荷トレの下山途中で、町内一斉清掃だった自分はM木さんと合流しキャンプサイト管理事務所で受付を済ませ、初めての市ノ池キャンプ場でS々木さんと待つこととする。

山飯の準備を整えるあいだ本日の献立はまだわかりません、リーダーも知らないみたいで材料を用意したO越さんだけが解っているみたい。

材料はお肉、茸、ゴボウ、トマト、パン、人参、イカ、エビ、貝、缶詰ソース、お酒、オリーブオイル、お餅、ブロッコリー、バナナ、リンゴの手作りジャムまで凝ったもので美味しくないのでありません。

コッフェル、鍋、フライパン、お湯と山飯ならではの調理器具でO越さんの指示でみんなが手伝います、お餅を焼く器具迄あります、携帯をキッチンタイマー代わりにO越さんが調理を進めていき、鍋の方は和風シチューと解り、もう一方はアヒージョだと教えられました。

口に入れたとたん 「ア・フィージョ!!」 でした(わけわからんが美味しい)、シチューも旨い、バナナホットサンド、アップルパイ風のも絶品! 引き立てコーヒーに極めつけは台湾茶を本格的茶器でM木さんがふるまってくれました。(至福のひと時!!)

野外で食べるBBQは周りの人たちが楽しんでいるけれど、うちらは凝った作りを満喫していました。



みずがきやま
■瑞牆山・金峰山

- 日 程：5月10日(日)～12日(火)
- 参加者：L 島谷 SL 高島 岡田(淳) 木村 松田
村上(敬) 安田
- 行動記録：



(10日)：姫路駅6:21 発一名古屋―塩尻―韮崎駅(12:34 着)12:40 発―(バス)みずがき山荘(13:55 着)14:10 発～富士見平小屋(15:20 着)

(11日)：富士見平小屋6:05 発～桃太郎岩6:40 発～瑞牆山(8:25 着)8:40 発～
桃太郎岩の北側あたり・事故(10:05 着)12:00 発～富士見平小屋(12:40 着)
13:20 発～みずがき山荘(14:05 着)14:25 発―(バス)韮崎―姫路(22:18 着)

■瑞牆山・金峰山山行でのアクシデント

安田

瑞牆山と金峰山に登る予定がアクシデントにより途中で帰って来てしまいました。

その時、感じた事など交えて山行報告をさせていただきます。

良い天気に恵まれて7名ワクワクで早朝の新幹線に乗ります。JRは気を付けないと、よく遅れがでています。案の定、早朝から網干から姫路までの電車もこの日は遅れていました。

それでも新幹線は平常通り運行されています。皆で「天気が非常に良いこと」に感謝して話がはずみました。ところが、名古屋駅を出て塩尻で乗り換えるのですが、電車が塩尻の10分程手前で止まってしまいました。放送を聞くとどうも前に走っている電車が熊と接触したというのです。なんと、電車と熊？驚きました。毎日熊が町に出ているニュースを聞いているので、「え！電車と！」と驚きました。何という事でしょう、乗換の電車に遅れる…。一瞬焦りましたが時間的には30分程度の遅れだったので韮崎駅からのバスには何とか間に合うことができました。



「みずがき山荘登山口」までバスで行き、ストレッチを済ませて登ります。この登山口は公園のように美しく、広々とした森で感じが良かったです。ここからゆっくり登っていくのですが、暫くすると何だかとてもしんどかったです。それでも30分位で、明日登る予定の瑞牆山が綺麗に見えるスポットに到着です。岩がごつごつと積んだ屏風ふうの綺麗な山です。しんどかったのですが内心ワクワクしながら富士見平小屋に1時間で到着。さすが名前の通り、小屋の前から富士山がしっかり見えました。そして夜は満点の★！綺麗かったです。

翌日、まずは瑞牆山に登り、そのあと富士見平小屋に帰ってきてから金峰山へ向かう予定です。



良い天気に恵まれて順調に山頂を目指します。やはり岩の山ですから頂上に近くなると岩、岩、岩です。山頂では360度の大パノラマ！富士山初め、南アルプス、中央アルプス、雪の御嶽山。目の前には八ヶ岳、その奥に北アルプス、後ろ立山。先に登って来ていた方から教えてもらいながら景色を満喫しました。

今回の下山中の事故のお話です。急峻な所を無事に過ぎて、あと 30 分程度で富士見平小屋に到着するという場所で O さんが足を滑らし、ひねって転倒。その時に本人が「あ！やってしまった！」と声を上げました。倒れたまま起きる事ができません。見ると左足首が不自然な方向に曲がっていました。直ぐに 119 へ連絡。山は電波が悪いので携帯も皆でしまいましたが通じません。私の携帯がたまたま繋がり救助要請をしました。リーダーがテキパキと慌てることなく全員に指示をだしまして、ヘリで病院へ運ぶことができました。

私が今回、一番感じた事はケガした本人が落ち着いていた事でした。本人がパニックっていたら、我々も焦ってしまったかもしれません。それと救急隊を待っている間も登山者が行き来するのですが、皆さん親切でした。声掛けをしてくださったり、一人の男性は何かかならないかと自身の救急セットを取り出して添え木代わりに出来ないかと考えてくれたりと、とても親切でした。転倒してから緊急搬送されるまでは約 2 時間を要しました。

今回の転倒で、一番ショックだったのはやはり本人だったと思います。ご家族もしんどい思いをされたでしょう。でもこれまで、会の人達は手や足を骨折しても復帰して山を楽しんでおられます。本人には「あきらめないで」と言いたいです。そして今回同行したメンバーも貴重な体験をしております。今後の為にもこの体験を無駄にしない伝達ができたら良いなと思いました。

★リーダーから一言

事故が起こるまでに軽い足滑りが 2 度あり、3 度目の転倒の声が聞こえると同時に「L の後ろで歩いてもらおう」と振り返ると、感想文にあるような状態になっていました。ヘリ到着を待つ間、痛みに耐えながらも、ご本人はこれからのシーズンに目指していた山々のことを「残念だ、行くつもりだったのに」と話され、心中察するに辛かったです。ワイヤーでヘリへ上がられる時に、巻き上がる風の中で救急隊員が「大丈夫だから」のような振りをしてくださり、安堵と感謝と祈りで見送りました。メンバーは、O さんへの声かけ・保温・栄養補給等よく動かれ、頼もしいかぎりでした。順調なご快復と復帰を待ちたいと思います。

■六甲山・芦屋川～最高峰

●日 程：5 月 2 4 日(日)

●参加者：L 砂川(延) SL 木村 池田 石堂 大谷 尾越 兼本 河合 佐野 田羅間 船本
古澤 山下(雅)

●行動記録：阪急芦屋川(8:56 着)9:07 発～高座の滝(9:50 着)～風吹き岩(11:10 着)雨ヶ峠(12:12 着)12:40 発～東お多福山(13:15 着)土樋割峠(13:25 着)13:30 発～一軒茶屋(14:40 着)15:10 発～土樋割峠(16:20 着)東お多福登山口バス(16:40 着)17:10 発～停阪急芦屋川(17:30 着)

◆六甲山ロックガーデンから最高峰へ

船本

快晴で気持ちのいい朝。ロックガーデンからいざ最高峰へ！

たくさんの登山客とすれ違い、さすがは人気の高い六甲山。高座の滝を経て、細い登山道を通り、ときどき岩をよじ登りながら、ゆっくりと雨ヶ峠をめざします。新緑がきれい。空の青



もきれい。鳥のさえずりや水の流れる音が聞こえていい気分です。やっと風吹岩に到着。そこで、虹が見えました。ちょっと下にカーブした「逆さ虹」に感激。

魚屋道を通っていくと、コアジサイがちらほらと咲いていました。白や淡い青色でかわいらしい。その花たちに励まされて雨ヶ峠に到着。やったー！お昼ご飯です。持参したおにぎり、いただいた冷たいパイナップルを食べて体力回復。

東お多福山山頂から一軒茶屋への道は狭く、かなり疲れてきたところに、ウグイスなどの鳥の声が聞こえ、癒されます。家に帰って鳥の名前を調べるのも楽しいです。でも、シジュウカラ？ヒバリ？なんだろう？鳴き声を忘れてしまって分からないままですが。そしてベニドウダン、ドウダンツツジ？アセビ？が目を癒してくれました。（名前がはっきりとわからないのでホームページに画像を載せておきます。）六甲最高峰へ行くのは時間の余裕がなく、休憩をとって石の宝殿へ。蛇谷北山コースを通して無事に十樋割峠に下りてきました。しんどかったところもありますが、おもしろいコースでした。みんなで「頭、注意です」「杭が出てから気をつけて」などと声を掛け合い励まし合いながらゴール。



この日はラントレイルのイベントに参加した人たちがたくさんいて、「2回目いってきまーす」「3回目です」と軽快に登ったり下りたりしていました。楽しみ方はいろいろありますね。私は、ゆっくりペースでみなさんと一緒に景色や鳥の声、花たちに足をとめながら登るのが楽しいです。そういえば途中で西宮明昭山の会の方たちともすれ違いました。どのルートを通っていらっしやったのか、出会ったのは1回きりでした。5月下旬の六甲山は、とても爽やかで日陰だと風が涼しく、鳥や花たちにも癒されて楽しかったです。砂川会長、リーダーお疲れ様でした。みなさん、ご一緒できて楽しかったです。ありがとうございました。

■増位山(259m)から廣峯神社周回

- 日 程：5月30日(土)
- 参加者：L 安田 SL 上田 SL 臼井 泉 大谷 喜田 田坂 田中(重) 田中(由) 船本 山下(永)
- 行動記録：随願寺駐車場8:30発～東尾根登山口(8:55着)9:00発～増位山展望台(9:45着)9:55発～弥高山(11:10着)11:25発～廣峯神社(11:50着)12:30発～随願寺駐車場(13:15着)

◆木陰多し!! 増位山、弥高山、廣峯神社を周回する

田坂

近くの姫路市でありながら、自身初の山行ルートでした。

当日はほぼ雲の無い晴天であった。リーダー安田さんを含め、集いしメンバーは11名でした。

JR 野里駅と随願寺駐車場の二つの集合場所から増位山自然公園東尾根登山口の大看板前に

集まって、そこで準備体操をします。自分は野里駅に集合、10分ほどで登山口の大看板に到着しました。

増位山は急登も無く、小さな段差も階段が設置されており、山道が整備されて、歩きやすい。皆さん会話を弾ませながら進んでいきました。コースは全体的に木々に覆われており、20℃超えの気温に関わらず過ごしやすい環境であった。新緑という言葉がまさに最適格で、大パノマラは有りませんが、時折眼下に広がる街並みとの景色は本当に美しく、緑が輝いていました。

増位山(259m)、弥高山(340m)を経由し、廣峯神社へ向かいます。弥高山は高御位山より高いですが、急登が無いので疲れ知らずです。夏場の山行におすすめです。廣峯神社近くになると、人工物の石垣や朽ち果てた土塀や家屋が現れ、歴史を感じることが出来ます。山中に墓苑があり、お花が手向けられており、こんな辺鄙なところによく建立したものだと感じました。

登り始めて3時間、ちょうど12時に廣峯神社に到着。休憩所にはテーブル、椅子が設置されており、待ちに待ったランチタイムを楽しみました。ここからは姫路競馬場や遠くの姫路城が望めます。神社参道の階段で集合写真を撮り、通った山道を引き返し、帰路につきました。

タイム4時間30分、距離10km、上り下り共に560m。休憩の度に、皆様からの差し入れも頂き、楽しい山行に感謝です。ありがとうございました。



■兵庫労山60周年記念・氷ノ山登山大会

●日 程：5月30日(土)～31日(日)

●参加者：L須増 SL野村(富) 吉村

●行動記録：

(30日)：割愛

(31日)：宿泊地/「京口屋」6:40 発～福定親水公園(7:20 着)7:30 発～布滝(7:40 着)～地蔵堂(8:30 着)～氷ノ山超(9:45 着)10:45 発～地蔵堂(11:35 着)～布滝(12:05 着)(12:15 発)～福定親水公園(12:30 着)～京口屋(13:05 着)



◆兵庫労山60周年記念・氷ノ山登山大会に参加して

野村(富)

5月30日、31日の2日間、兵庫労山結成60周年記念「氷ノ山登山大会」が150名の参加者で開催されました。

5月30日(土)山電高砂駅(9:30)集合、高御位山遊会から3名と他の会から2名が兵庫

労山の貸し切りバスに乗車しました。小型バスで9:45に山電高砂駅北口より出発して予定通り(12:10)奈良尾(宿泊先 京口屋)に到着。

昼食後、慰霊登山が行われ、17:00~20:00に懇親会が開催されました。

5月31日(日)には、氷ノ山登山大会が、①~④コースを各会別に計画して「各会主導の登山」が実施されました。

30日(土)・・・慰霊登山と懇親会

●慰霊登山

14:00に小型バスと数台の乗用車に53名が分乗して国際スキー場の登山口から慰霊登山に参加しました。「1997年1月氷ノ山雪崩遭難死亡者5名事故」から30年近くなります。雪崩遭難事故から4か月間の捜索活動が行われその間、延べ2594人が捜索活動にあたりました。雪解けの4月5日に最初の遺体の一人を発見、場所は、国際スキー場のグレンデまで百メートル程の所です。グレンデの音楽も聞こえていたと思われる場所、もう少しの所で無念にも力尽き果て亡くなられたと思われます。その後、雪崩現場で4名が発見され、5名全員を収容してご遺族のもとにお返しすることが出来ました。当時、遭難救助隊として捜索中に遭難者を発見された先輩会員の方に、遭難捜索状況の説明をお聞きしながら発見現場2か所を案内して頂きました。



今回の慰霊登山参加者には兵庫労山入会歴30年以上の方も多く、80・70代の高齢者の方々が、慰霊登山中に当時遭難救助・捜査活動に参加された時のお話しなど、故人の思い出話などもお聞きました。

現在、遺体発見場所の2か所に慰霊のためのお地蔵様が建立されて、御霊をお祀りしています。このような悲しい事故を再び起さ無いことを願い、全員で一人一人お地蔵様に手を合わせ、5名の仲間のご冥福をお祈りさせて頂きました。

●懇親会

17:00~20:00に懇親会が(旧熊次小学校)で、盛大に開催されました。

懇親会の初めに「氷ノ山の自然を守る運動の歴史とその意義」運動をふりかえって

(元兵庫労山自然保護対策委員会責任者の久保富三夫氏)の講演会が開催されました。

1966年に結成した兵庫県勤労者山岳連盟が1971年に初めて自然保護活動に組織的に取り組み、その兵庫労山をはじめとする自然保護団体が「氷ノ山を守る会」を結成し、林道建設反対活動を行い「山岳スカイライン建設反対」により大きくルート変更させた氷ノ山の自然保護活動の結果、今日の氷ノ山の素晴らしい景観を守り抜くことが出来た事、運動と歴史の講演をお聞きました。

懇親会では南京玉すだれの余興などがあり、山登り用品オークションが行われました。120名が民泊で、旧熊次小学校の運動場で30名がテント泊でした。

31日(日)・・・「氷ノ山登山大会 氷ノ山越までのゆっくりコース」を往復

6:00起床～ 民宿「京口屋」で朝食

今回のコースの「氷ノ山越え」は、福定の親水公園から氷ノ山登山コースを約2時間で登れて、鳥取県の県境にある峠に到着できる。ここは標高1,247メートルで、鳥取へ通じる「氷ノ山越え」という街道の峠にあたります。

※兵庫県側から氷ノ山までの最短コース(急登の28曲がりコース、スズコ狩り1時間のゆ

っくりコース) にしました。

6:30 ストレッチをして「京口屋」を6:40 出発、福定親水公園の登山口から沢沿いの橋を1km程登ると滝が見えてきた、白い布を垂らしたような岩肌を流れる落差65mの滝、「布滝」である。水量も多い雄大な滝を見ることが出来ました。少し登ると「28 曲り」の標識がある。くねくね28 回まがる急登コースの始まりです。幾らくねくね登っても高度が稼げない・・・布滝から1 時間ほどの28 曲りを登って、やっと視界が開け地蔵菩薩の木像が祀られた(地蔵堂) 小屋に到着。登り道の途中には急な鉄の上下階段が有り、湧き水も多いのか「弘法の水」と「一口水」水場が有った。地蔵堂から1 時間の登りで今日の目的地の「氷ノ山越え」9:45 標高1,247m に到着。多くの登山者が鳥取県側から兵庫県側から集まり賑わっていました。

峠の避難小屋で、民宿「京口屋」の登山者用大盛「たけのご飯の弁当」で舌鼓を打ち「スズコ狩り」をして「ゆっくり氷ノ山越え」の道を下山しました。



■善防山(山歩き教室) 実技-2

●日 程：5月17日(日)

●参加者：L 西脇 SL 臼井 SL 春本

〔サポート〕木村 砂川(延) 藤原

〔教室生〕浅田 伊藤 竹林 田中(純) 中岡 福永 三宅 村上(ま) 柳本

●行動記録：善防公民館 9:15 発～衣服調整(9:25 着)9:30 発～善防山(9:50 着)10:00 発～鎖場
上(10:35 着)10:45 発～分岐路交差(11:15 着)11:20 発～笠松山(11:30 着)11:40
発～古法華寺・昼食(12:10 着)12:40 発～善防公民館(13:00 着)

◆加西アルプスを満喫して

伊藤

朝から雲ひとつない晴天に恵まれ、自宅を出発した。善防山公民館駐車場に集合し、ストレッチをしてから大手門登山口へと向かった。出発時から肌を刺すような強い日差しが照りつけ、5月とは思えない暑さだった。

最初の岩場を登り、木々が生い茂る登山道へ入ると、日向とは違って木陰の空気はひんやりとしていた。時折吹く心地よい風もあり、快適に歩くことができた。最初の休憩地点では、すでに町を見渡せる高さまで登ってきたことを実感した。その後ほどなくして善防山山頂に到着した。山頂からは笠形山がよく見え、その美しい景色に感動した。記念撮影を終えると、吊り

橋へ向かって再び歩き始めた。

新緑が鮮やかな登山道の景色を楽しみながら、急な岩場を登ったり下ったりしつつ、足元に注意して進む。気温は朝よりさらに上がり、体力も徐々に消耗していった。笠松山のくさり場は、下を見る余裕がないほどの迫力だったが、登り切った先には善防池や皿池を見渡せる絶景が広がっていた。その眺めは、それまでの疲れを忘れさせてくれるほどだった。善防山の方を振り返ると、歩いてきた道のりを実感した。さらに進行方向の笠松山へ目を向けると登山者の姿が見え、



「あとどのくらい歩くのだろう」と期待に胸が膨らんだ。実際の登山道は、急勾配の岩場を一人ずつ順番に登る場所もあった。歩いていると自然と足元ばかり見てしまうが、北条鉄道の列車の音が聞こえたとき、音のする方へ目を向けると、そこにも素晴らしい景色が広がっていた。そんな発見もあり、登山そのものを存分に楽しむことができた。

笠松山展望台に到着すると、展望台からの眺めを楽しみ、その後は日陰でひと息ついた。下山では足元に気を配りながら、登りでは気づかなかった景色を楽しんだ。やがて古法華寺に到着し、それぞれ昼食を楽しんだ。5月ならではの新鮮な新緑と季節外れの暑さを感じながら、初めて歩く加西アルプスを存分に堪能することができ、充実した一日となった。

◆加西アルプス(善防山～笠松山)

中岡

今日は善防山・笠松山へ登山に行ってきました。天気は快晴で、青空がとても綺麗でした。

登っている途中は木々に囲まれていて、風も気持ちよく、自然をたくさん感じることができました。山道は、ところどころ険しい場所もありましたが、無事に登り切った時の達成感は大きかったです。

山頂からの景色は本当に素晴らしく、遠くまで広がる町並みや山々を見渡すことができました。特に「笠松山 244m」の景色は開放感があり、思わず何枚も写真を撮ってしまいました。自然の中で過ごす時間は、とてもリフレッシュでき、日頃の疲れも忘れられました。



今日は暑かったですが、その分、山頂で感じた風がとても心地よかったです。

十数人に及ぶ集団での登山は初めてなので、ペースを乱して、他に迷惑をかけるのでは、という不安もあったのですが、メンバーのサポートやコースガイドもあり、安全・安心にたどり着け、これまで見ることのなかった自然の美しさ、体を動かす楽しさを改めて感じる事ができたことが何よりもよかったです。

善防山・笠松山への登山は、初めてでしたが、また違う季節にも訪れてみたいと思います。そして、新たな山にも挑戦してみたいと思いました。



◆初めての加西アルプス！

柳本

山歩き教室実技2回目は 加西市の善防山～笠松山、加西アルプスです。



善防公民館に集合し、大手門登山口から出発します。前回に続きお天気が良く、出発前から、暑い。

登山口からは木立の中を水分補給をしながら進み、善防山山頂へ到着しました。

善防山は山頂からの見晴らしがよく、南北朝時代には、街道を見下ろす要所として善防師城〈貞和2年（1346）、備前播磨摂津守護の赤松範資が築城〉があったそうです。

次の目的地 笠松山の姿を眺めて、出発します。

尾根伝いを遠くに北条鉄道が走るのを見ながら、吊り橋へ。いよいよ最初のくさり場です。両手両足全部使ってよじ登りました。後ろ振り返ったらあかんヤツでした。

休憩の後、岩場・木立を進み、展望台前のくさり場へ。

えっマジ?! な岩場をエイヤッとよじ登る。帰りはこれを下るの?!

笠松山山頂展望台に到着し、景色を楽しみました。満足。

ひと休みして下山です。この辺りの長石と呼ばれる凝灰岩の岩場をみなさんテンポよく下りて行かれます。登山靴のグリップ力に感謝です。

古法華で昼食休憩の後、帰路 善防公民館へ。

歩くことに精いっぱいでしたが、無事に登頂下山することができました。

リーダーや事務局のみなさん、教室メンバーのみなさん、ありがとうございました。

次回もよろしくお願いします。



■コンパスの取り扱い(山歩き教室) 実技ー3

●日 程：5月23日(土)

●参加者：L野村(富) SL須増 SL安田

[サポート] 徳本 藤原

[教室生] 浅田 伊藤 中岡 野村(詩) 福永 三宅 和田

●行動記録：駐車場(13:00 着)～コンパスの説明 13:15 発～(A)現在地確認 13:55 発～地点⑨14:13 発～(B)渡渉点 14:20 発～⑪馬の背分岐 14:25 発～⑭馬の背分岐 14:40 発～⑬馬の背 14:50 発～⑮下山 15:05 発～駐車場(15:10 着)

◆「天候判断と地図の読み方」に参加して

福永

まず、須増さんより天候判断について受講しました。気圧、前線、雷等々の基礎知識を知り、日本付近では天気は偏西風に乗って西から東へ移動することを大前提に

①→山行数日前から天気の変化傾向をチェックしておくこと。

②→遠方の山行予定地の天気の変化に留意すること。

気温は 100m 上昇する毎に約 0.6 度下がり、更に風速 1m につき体感温度は約 1 度低下するので、平地で気温 30 度でも 2000m 級の高山では気温 18 度に、プラス風速 5m 吹いていれば体感温度は 13 度まで下がるので 低体温症をおこしやすく遭難につながることもある。体調悪化する前に、正しい判断をしなければならない。

無理しないで「安全」なほうを選択、帰路の新幹線の座席は予約しないこと。

ご自身の体験談や、いろんな遭難例を伺い大変勉強になりました。



次に野村さんより地図読みについて教わりました。書店で販売されている実物を見せて頂きましたが、通常の 25000 分の 1 の地図では、実際には使い辛く、今回は国土地理院の地形図を基にパソコンで作成された 15000 分の 1 と、12500 分の 1 の実習用地図を準備して下さいました。

①→山行には、必ず紙の地図、複数枚をビニール袋にいれて持っていくこと。

スマホに地図をダウンロードして持っていくときは機内モードにしておくで電池の消耗を気にせず GPS で位置確認が可能。

②→尾根筋と谷の見分け方や地形図の読み方を学び、特に下山する時が要注意であること。

自分がどのルートで登ってきたのか、そして、これからどのルートを通るのか地図を見てよく確認してから昼食をとることが道迷いを防ぐポイント。

③→コンパスの取り扱い方～午後から市の池公園にて実技第三回「コンパスの取扱い」

現在地がわかっている前提で、目的地にコンパスの長辺のへりをあわせ、リングを回して地図の磁北線にリング底の経線が平行になるように合わせます。地図からコンパスを離して身体の前で水平に構え磁針とノースマークが重なる方向を向くと進行線の指し示す先に目的地があります。皆で市の池公園東から高御位山に登り、分岐点ではコンパスを使い方向を確かめつつ、高圧鉄塔や高圧線など目印になるものも利用しつつ鹿島神社鳥居あたりに下山。コンパスの取扱いにはまだまだ何回も修練が必要だと感じました。長時間のご指導有難うございました。